

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.7

「国語科の協働学習時における効果的なICT機器の活用実践」
～1人1台端末とJamboardの活用を通して～

事例児童の実態	特別支援学校小学部 5年生 - 対象クラスは、当該学年相当の目標・内容で学習を行っている。 - 全員が車椅子を主とした生活であり、学校内の移動や授業準備等については自力でできる。 - 障害に起因する身体活動の制限が多く、一斉指導の際には、個別に配慮や工夫が必要である。 - 国語科においては日常的に ICT 機器を使用しており、機器操作や概念の理解において大きな支障はない。
教科(単元名)領域	国語科 (「鳥」鳥が出てくる言葉を集めましょう)
使用した機器等	iPad、キーボード付きカバー、Apple Pencil Google 社のアプリ：Classroom、Jamboard 教師：大型液晶テレビ、AppleTV、iPad (辞書アプリ)
本単元で育てたい資質・能力	【知識及び技能】 思考に関わる語句の量を増やし、文章の中で使えるようになること。語句と語句との関係や語句の構成や変化について理解し語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や意図に応じて感じたことや考えたこと等から書くことを選ぶことができる。集めた材料を分類したり関係付けたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く、言語表現を集めようとする。

指導のポイント

- ICT 機器を活用することで、肢体不自由による行動の困難さの低減を図る。
- テーマに沿った言葉をできるだけ多く集め、確認・分類していくなかで、「鳥」を使用した言語表現の多様さに気付くことができるようにする。

ICT を活用した実践

○授業内容

- 「鳥」を扱った言語表現を集める。
- 1人1台の iPad を使用し、「Jamboard」による共有・協働学習を行う (図1・2)。

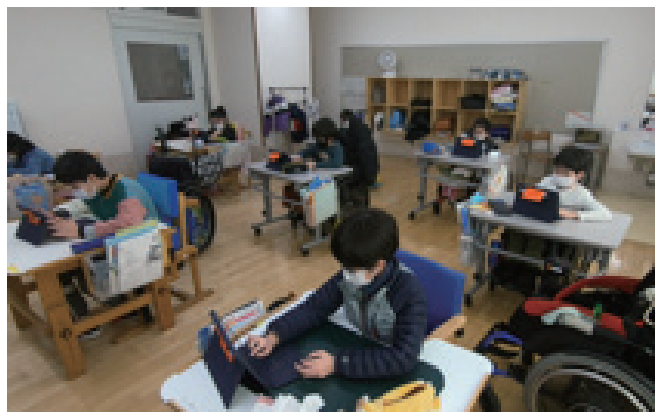


図1 Jamboard に入力する様子

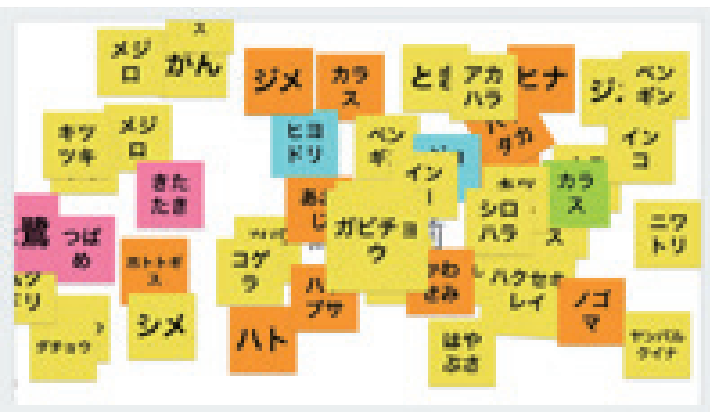


図2 Jamboard の画面

ICT を活用した実践（続き：活動の流れ）

○活動の流れ

1 教科書の文章から「鳥」を扱った表現や歌を知り、声に出して読む。



2 「鳥」に関する言葉を本やインターネット等で調べ、「鳥」を使用した言語表現の多様さに気付く。



3 集めた言葉を辞典で調べたり分類したりする。

言葉を精査・分類する際には教師が辞書アプリを活用した。

児童が入力した言葉をコピーすることでそのまま複数の辞書を引くことができた。また、iPad の画面分割機能と併用することで時間を短縮し、多くの言葉を対象とすることができた（図3）。

※これらの活動の様子は、画面共有機能を用いて教室内のディスプレイに常時投影し、児童全員が参照できるようにした（図4）。

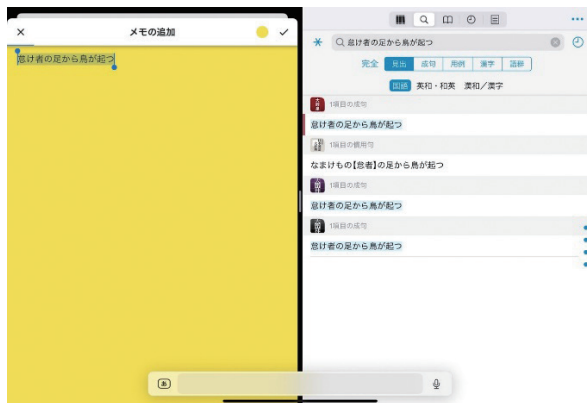


図3 iPad 画面の分割機能と辞書アプリの活用



図4 画面共有しながらの活動

児童の変容

共有された答えに対する他児童の肯定的な発言等により、自分の行動や回答に自信がもて、さらなる学習行動につながった。

本事例から学ぶ ICT 活用のポイント

ICT 機器やクラウドベースのアプリを活用することで、自己の表出が少ない児童でも、考えを入力したり発表に繋がったりして、協働的な学習を効果的に行うことができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和4年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：山浦 和久（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）